

## 朝鮮労働党第8回大会とチュチェ思想研究活動における意義

極東連邦総合大学教員  
朝鮮民主主義人民共和国社会政治学博士  
クリコフ・ゲンナジー・ペトロビッチ

朝鮮労働党第8回大会は2021年1月5日から12日まで平壤で行われました。

大会で朝鮮労働党は朝鮮式社会主義偉業にたいする自己の忠実性を確言し、金正恩委員長を朝鮮労働党の総書記として推戴しました。

大会は朝鮮労働党の政治路線と経済戦略の正当性を確認させました。

党大会の召集と関連した決定は2020年8月20日、朝鮮労働党中央委員会が第7期第6回総会で初めて公布しました。

それで全国と全党は、朝鮮の歴史で重要なこの出来事を迎えるための準備活動を行いました。

さらに第8回党大会で朝鮮民主主義人民共和国の新たな5ヵ年経済発展の計画が示されるだろうと宣布されました。

党大会をひかえて国の労力資源を大いに動員して経済を集中的に発展させるための「80日間戦闘」が始まりました。

この戦闘は党大会を勤労の成果で迎え、今後の経済発展を推進するためのものでした。

戦闘は2020年10月12日に始まり、党大会の開催を前にした12月30日に結束されました。

大会の議題には朝鮮労働党中央委員会の活動総括（報告者は金正恩総書記でした）と朝鮮労働党中央検査委員会の活動報告、朝鮮労働党規約の改正について、朝鮮労働党中央指導機関の選挙など、重要な問題が含まれました。

大会では朝鮮労働党中央指導機関選挙が行われ、経済発展5ヵ年計画が採択され、金正恩委員長が朝鮮労働党の総書記として推戴されました。

朝鮮労働党規約の一部が修正、補足されました。

党規約では全社会の金日成・金正日主義化を党の最高綱領として明白に規定し、党大会を5年に一回召集するということを明らかにし、各級党委員会の委員長、副委員長の職制を書記、副書記にし、政務局を書記局に、政務処を書記処に改称するようにしました。

大会は商業サービス活動全般において国家の主導的役割、調整統制力を回復することについて強調しました。

朝鮮労働党第8回大会は他の特徴ももっています。

朝鮮労働党中央委員会活動報告は、達成した成果ではなく、2016年の朝鮮労働党第7回大会が示した課題を遂行する過程に現れた欠点を解明することに基本を置きました。

これは金正恩総書記が講じた大胆な措置でした。

計画の未達成の原因にたいする批判は、党の指導力と社会経済および政治情勢にたいする党の掌握力、朝鮮人民と国家、党の創造的能力にたいする確固たる信頼を確認するものでした。

現存する欠点にたいする公開的な批判はまた、近い将来だけでなく、国の展望的な発展のためにもっとも均衡的な方針を提示しようとする朝鮮労働党指導部の志向の正当性を示しました。

党大会で講じたこうした大胆な措置は、全朝鮮社会の哲学的、政治的・思想的基礎であるチュチェ思想、金日成・金正日主義の威力にたいする朝鮮労働党指導部の確信を証明しています。

さる期間は、朝鮮社会の伝統的なチュチェ学説を基礎にすることが有益で必須であることを明白に実証しました。

この学説は民主主義的で社会主義的な新たな内容で充たされています。

同時にこの措置は経済発展の目標を確定し、それを実現すべき必要性和可能性について朝鮮労働党の指導部が確信をもっていることを示しました。

この二つの場合、朝鮮社会の発展で「自然発生的な市場」の許容を排除し、計画的基礎を維持、強化しようとする志向が表れています。

大会の終わりに伝統的に奏楽されていた朝鮮労働党の賛歌の代わりに久しぶりに共産主義者の国際的頌歌である「インターナショナル」が奏楽されました。

これは世界の反帝勢力と社会主義運動との協力を強化しようとする朝鮮労働党と朝鮮民主主義人民共和国の意志であると評価できます。

金正恩総書記の報告では具体的な目標が公開されなかったが、経済部門と核潜在力を同時に発展させるという内容が新たな5ヵ年計画の課題の一つとして定められました。

金正恩総書記は電力問題を解決して人民の生活水準を決定的に高め、基幹工業と農業を発展させ、一般消費財の生産を増やすことについて指摘しました。

金正恩総書記はまた水力発電所の建設を促進するとともに、原子力発電所建設の確固たる展望を開かなければならないと指摘しました。したがって先端科学分野を発展させるという課題が示されました。それは朝鮮民主主義人民共和国の経済を発展させるための課題でした。朝鮮民主主義人民共和国はこの課題を遂行することにより、現代的な動力基地と新技術発展の新たな境地に達するようになるでしょう。

周知のように、朝鮮労働党第8回大会の決定は全朝鮮人民の平和な生活保障において運命的な意義を有します。ゆえに、大会の報告を研究し、朝鮮労働党と朝鮮民主主義

人民共和国の対内外政策を研究することは大きな意義をもちます。

ロシア極東地域金日成・金正日主義研究協会の活動においてそれらの決定は特別に重要な意義をもちます。

現在、われわれの協会がもっている幅広い図書目録基地を利用すれば、チュチェ思想の創始者であり、朝鮮の初の人民国家である朝鮮民主主義人民共和国の創建者、建設者の著作を十分に幅広く学習することができます。

われわれの協会がウラジヴォストーク駐在朝鮮民主主義人民共和国総領事館と深い連携をもっているのも活動に大きな助けとなります。この連携は多様な性格を帯びて引き続き発展しています。

現時、朝鮮民主主義人民共和国の現実を研究する上で大きな援助をしているのは朝鮮社会学者協会です。

朝鮮社会学者協会の活動家はわれわれに助言もし、朝鮮の社会発展と関連したさまざまな問題を研究に協力もしています。

恐ろしい伝染病の感染を防止するために、それぞれ隔離されている状況で、金日成・金正日主義の研究と実践の形式は変わっています。

われわれの協会は現代情報技術を適用し、遠隔通信体系を通じてさまざまな問題を研究することに活動の中心を置いています。

前にはわれわれが主に責任活動家が協会のメンバーにわたす知識を受動的に受けとる形式を基本にしていたが、今は協会のメンバーの積極的な活動を基本にして、彼らがさまざまな問題にたいする討論文を準備するようにしています。

普通、インターネットセミナー、言い換えればリアルタイム会議の方式でセミナーをおこなっています。2020年と2021年の2月にこのような方式でセミナーを行いました。

われわれは、他の金日成・金正日主義研究協会がモンゴル（ウランウデ）、サンクト・ペテルブルグなどの地域で行ったセミナーにも協会のメンバーを参加させています。

しかし、われわれがチュチェ思想の宣伝で伝統的に利用するもっとも重要な方式は各種の抗議行事に参加することです。特に、われわれは朝鮮民主主義人民共和国の沿海でアメリカと南朝鮮が行っている合同軍事演習に反対する抗議デモと朝鮮民主主義人民共和国の平和愛好的な政策を擁護、支持するデモを行っています。